中日新聞

2020年（令和2年）8月27日（木曜日）

教えて！ドクターQ&A

㈱宣通 (052)979-1600 広告

Q 80歳代になる祖父についての相談です。数年前から歩くことが困難になり、よく転倒するようになりました。近くの整形外科医院でリハビリに通院していますが一向によくなりません。表情も固く、動作もゆっくりとしています。最近になって両手にふるえがみられるので、ネットで調べたところパーキンソン病に似た症状であることに気づきました。かかりつけの内科の先生からは高齢だから仕方がないと言われています。どうしたらいいでしょうか？

A 優しいお孫さんですね。この方の場合、パーキンソン病は鑑別すべき疾患の一つだと考えます。典型的なパーキンソン病では一側の手に特徴的な振戦が出現し、その後前屈小股歩行が出現してきますが、振戦を伴わずに歩行障害が目立つ方も少なくありません。この際、パーキンソン病に特徴的な仮面様顔貌や歯車様の固縮といった神経症状を見落とさないことが大切です。診断に際しては神経内科医や脳神経外科医などの専門医の診察を受けるのがいいでしょう。神経学的検査、頭部MRI検査に加えて、脳内のドーパミンを評価する線条体ドーパミントランスポーターシンチグラムや心臓の交感神経の異常を評価するMIBG心筋シンチグラムでの評価が確定診断には有効です。パーキンソン病に対してはL-DOPAという内服薬があり、適切に内服すれば神経症状が劇的に改善することが期待できます。高齢であるからといって経過をみるのではなく、しっかりと診断をして治療することが大切です。

院長　酒井　直人
（サカイ脳神経外科）

日本脳神経外科学会認定専門医
浜松医科大学卒業　浜松医科大学脳神経外科入局　浜松医療センター、聖隷浜松病院、御前崎総合病院、浜松医科大学を経て、平成28年浜松市中区にサカイ脳神経外科開院　現職
頭痛、めまい、物忘れの診療に加えて、脳卒中後遺症、パーキンソン病、難治性めまいのリハビリテーションに取り組んでいる